

平成14年10月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

東京都レッドデータブックのトンボ

「レッドデータブック」とは、絶滅のおそれのある野生生物のリストです。日本版の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」は、1991年までに環境庁によってまとめられ、また、その東京都版とも言うべき「東京都の保護上重要な野生生物種」（1998年版）も東京都によって作成されています。

この概要は、前回文化財ニュース第170号（平成13年12月）に、「東京都レッドデータブックの蝶」を掲載した際に触れましたが、今回は続編とでもいうべきものでトンボについて触れます。

東京都では、島しょ部を除き約80種のトンボが生息しています。このうち、アキアカネやシオカラトンボのようにごく普通に見られるものを除き67種が東京都版レッドデータブックに掲載されています。この数字は東京都に生息するトンボの約80%にあたります。これほど多くの種がレッドデータブックに掲載されているのは他の昆虫にはありません。

この理由は、第一に、トンボの幼虫であるヤゴは水の中で生活するため、水辺の環境が変わると大きな影響を受けることにあります。現在は普通に見られても、環境の変化によって一気に絶滅のおそれがあるため、生息基盤の脆弱^{ぜいじゃく}な種として扱われているものが多くなっています。

第二に、このような理由から、田んぼや池沼が無くなり、河川がコンクリートの三面張りになってしまった都区内では、多くのトンボが絶滅または絶滅が危惧される状態になっています。多摩地区でも都市化と開発により同様の事態が進行しています。オニヤンマのように青梅市では普通に見られるトンボでも、都区内では滅多に見られなくなっていて、ヤゴが育つ環境が改変されると、今は普通に見られる所でも一気に激減することが危惧されるためです。

青梅市には52種のトンボが生息していますが、この中には東京都版レッドデータブックに掲載された67種のうち41種が含まれています。青梅市にはそれだけ豊かな自然が残っ

(裏面につづく)

ていることとなります。これを生息環境別に分けると次のようになります。＊印を付けた種は青梅市でも生息地が限られているトンボです。

A：流水に生息する種

A a：やや幅の広い礫～砂礫底の河川に生息する種

ハグロトンボ、ミヤマサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ

A b：主に谷戸の湧水を水源とする小流や水路に生息する種

カワトンボ、＊ヤマサナエ、＊オジロサナエ、ダビドサナエ、オニヤンマ、ミルンヤンマ

A c：山地の溪流に生息する種

＊クロサナエ、＊ヒメサナエ、＊ムカシトンボ

A d：その他

コシボソヤンマ

B：止水に生息する種

B a：明るい開放的な池沼や湿地(または水田)に生息し、人為的な汚染や環境変化に強い種

オオイトトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ

B b：周囲に樹陰のあるやや薄暗い池沼や湿地に生息する種

オオアオイトトンボ、＊クロスジギンヤンマ、＊タカネトンボ、ネキトンボ

B c：谷戸の湿地（休耕田、水田を含む）や湿地内の水たまりに生息する種

キイトトンボ、オツネントンボ、ホソミオツネントンボ、＊コサナエ、＊サラサヤンマ、ヤブヤンマ、ルリボシヤンマ、マルタンヤンマ、＊カトリヤンマ、ハラビロトンボ、＊ヨツボシトンボ、シオヤトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、＊ヒメアカネ、ミヤマアカネ

B d：植生の豊かな池沼に生息する種

アオイトトンボ、＊キトンボ、＊チョウトンボ

C a：丘陵地の水がしみ出る土の斜面に生息する種

＊ムカシヤンマ

これらのうちA b、B c、C a型のトンボは里山環境型の種類で、さらにこの中で＊印を付けた種は、東京都全域でも生息地の限られた種です。青梅市においても環境の改変による生息地の消滅が危惧されるトンボです。トンボは素晴らしい環境指標です。その土地にどのようなトンボが生息しているか調べると、その土地の自然環境の状態を診断することもできます。

(文責 久保田 繁男)